

## 岸田首相はG7広島サミットを目指し 日本らしい勇気と支援を発揮せよ

3月21日、岸田総理は電撃的に、ウクライナの首都キーウを訪問しました。

翌日にはマイアミで行われた「2023 WBC」決勝戦において日本が優勝。まさに絶好のタイミングであり、世界の目が日本に集まりました。

岸田総理は、ゼレンスキー大統領との会談の中で、日本は戦略的武器供与はできないが、エネルギー関連や殺傷能力のない装備品の提供によるウクライナへの後方支援を強力かつ迅速に推進することでウクライナのニーズに合わせた支援を行えたと語っています。

世界的な食糧危機が叫ばれる中、今こそ日本は、ウクライナが誇る小麦、大豆、トウモロコシなどの生産に対する支援や、ロシアの侵攻によって荒廃したウクライナ国内のインフラ整備など復興に向けての協力など、これを契機に積極的・戦略的な日本の外交に着手すべき絶好のチャンスだと思います。

日本の総理大臣として戦後初となるこの戦地訪問を敢行した岸田総理の英断に共感するとともに、エールを送りたいと思います。

5月19日には広島においてG7サミットが始まります。ゼレンスキー大統領もオンラインでの参加を快諾しましたが、このタイミングでのウクライナ訪問は、G7広島サミットにおける日本のリーダーシップを打ち出すために本当に良いきっかけでした。

惜しむらくは、和平に向けての提言と努力の表明があればと感じました。

米・中・韓の動きとは別に、日本だからこそできる動きがあるはずです。

G7広島サミットにインド・韓国の首脳を招待するだけでなく、さらに広島の悲劇を世界の首脳にお見せすることだけでなく、もっと行動力を発揮し、世界平和に向けての歩みを着実に強く打ち出すことこそ、唯一の被爆国である日本のヒロシマにおいて開催されるサミットの議長国首相としての岸田総理の発信力の見せ場ではないでしょうか。

日本だからこそできる、ウクライナ復興のためのインフラ整備や人道支援への動きは、日本が世界経済をけん引していく大きな足掛かりになると思います。

G7広島サミットの成功を期待しています。

本誌主幹

大中吉一